

# ひろば大代

NO.222

大代公民館

新年 明けまして

おめでとう

ございます。



大代公民館

皆様方にはお揃いで、よき新年をお迎への事と心よりお慶び申し上げます。旧年中は公民館の主催致しました各行事に大変なご理解、ご協力を頂き有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新春を迎えて

連合自治会長 高村 貢

皆様明けましておめでとうございます。新年を迎え皆さん夢多く今年こそはと希望を持っておられる事でしょう。

今年は大代では皆さんの待ち望んでいた大代小学校の屋体も一月末をもって完成し、大代小学校も竣工の運びと

なります。そして大代バイパス工事も遅れながらも進みつつあります。

一月末には大田市の市議会議員選挙があります。今後更に大代町が活性化していくためには皆さんのご協力をお願いし、団結して明るい町づくりを目指しましょう。

お互い個々の目標を持って助け合い良い一年でありますようお祈り申し上げます。

新年を迎えて

大代地区社協会長 鈴木光夫

新年あけましておめでとうございます。平成十年元旦は青く澄みきった天高い空で幕開けとなりました。

大江高山が堂々とそびえ立つ姿を、私は年始会の開催された高山広場から眺め、平成十年も頑張るぞという気持ちで滞りてきました。

さて町民の皆様には昨年度大代町社会福祉協議会の活動に関し、いろいろの分野に於てご協力を頂きましたことを御礼申し上げます。又本年も昨年同様に協力の程宜しくお願い申し上げます。

社協も町民の皆さんのニーズにあつた活動を推進して、高齢化社会の中で大代町で生活していることが、生きがいとなるような、社会環境をつくるように自治会を中心に各種団体と共に協力していきたいと思っております。

ことわざに「言うは易く行うは難し」とあります。言うことはいくらでも言えるのですが、実際にそれを実行し、さらには実績を残すことは非常にむずかしいことと思えます。

しかしこの事を大代婦人会の皆さんは実行されておられますことに敬意を表しますとともに、一層の協力をお願い致します。

最後に大代町発展の為、社協も一層努力していくことを皆さんに誓い念頭の挨拶と致します。

新年のご挨拶

東京石見高山会会長 田中憲経

ご郷里の皆様、新年あけましておめでとうございます。

この一年を振り返ってみますと残念ながら明るいニュースに乏しく、経済

低迷、金融不安など暗いニュースが多かったように思います。

考えてみれば、この数年同じような思いで年末を迎え、新年を迎えているような気が致します。このような閉塞状態で、三年後に到来する二十一世紀の日本は、本当に大丈夫なのかという思いがどうしても避けられません。

あんなに輝いて見えたアジア太平洋経済圏が、昨年突如として崩壊の兆候を見せ、最後の砦日本までがドミノ的に押し倒されるようなことになれば、間違いない世界恐慌の導火線になってわが身に降り懸かってくることは、明らかだと思われれます。

こうした事態に対する政治の鈍感さにやきもきしているこの頃ですが、寅年の新年を迎え、『政官財民』がいや『民財官政』が一体となって、発想を大転換し猛然と危機打開に向けて立ち上がるべき時期ではないかと愚考しております。

世の中に蔓延している不安感が払拭され、明るい未来が展望できる新しい年となりますよう、また皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

特集 〓 私は寅年  
がんばります

本郷 日向光



私は今年で六年生になります。最高学年だから、下きゆう生のめんどうを見たり、勉強とかをがんばりたいです。私は、国語や理科があまりできないので、六年生になったら全部テストで百点にしたいです。

私は、しょう来かんどふさんになりたいです。どうして、かんどふさんになりたいかは、けがをしている人や、病氣の人をたすけられるからです。

病氣の人がよくなって「ありがとございます。」と言われると、かんどふさんになってよかったと思うからです。

今年私の年

下市 永井利樹

明けましておめでとございます。

さて本年「寅」年は私の年だそうですね。でも私、個人としては猫年生まれと世間では言っています。何故なら、寅ほど立派でなく成長しきってないからです。と言いつつ、四回目の年男になるほど、年を取って来ました。

十二年毎の節目となる年です。昔の世代なら死と向かい合わせの年齢ですが、しかし、遊びに向いた時はまだ三代後半か四十代前半の年齢で通用しますが……。そう言いながら、やはり年を気にしている世代に入ったのですね。中国、西洋等、占いはほとんど十二区別してあります。新聞等の本日の運勢は……気にはしますが、この世の中の十二分の一の確率で当てはまる人がいると思うと余り気にならなくなりませす。

しかし悪い運勢だと、つい気にして一日ピリピリとして動いています。

今年一年は自分が年男だと言う事や頭の中に入れて、一層努力すれば猫から寅へ変身が出来るかなとも思います。次の年男の時は還暦です。その年には威張って「寅年生まれです。」と言えるよう十二年間ガンバリます。

新春に寄せて

川上 岩田律枝



明けましておめでとございます。  
 今年は年女と言う事で原稿の依頼を受けました。

年男と言うのは昔武家で新年を迎えるための飾り付け、若水くみなどする男の人、節分に豆まきをする男の人をその年の干支にあたる生まれ年の男性から選ばれたのだそうです。それに対して女性は何女と言う事です。

私は五回目の年女を迎えました。子育てに百姓に会社勤めにと忙しさに追われる毎日でした。子供達もそれぞれに世帯を持ち、それなりの生活を送っている様です。

ほっとして気が付けば六十の坂を登ろうとしていました。それでも今日までこれといった大病もせずに来られた事と丈夫な体で育ててくれた両親に感謝したいと思います。

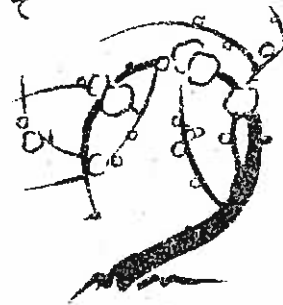
私が子供の頃に見てきた六十才のおばあさんといえ、相当のお年寄りに

思えたのですが、自分がその年に成ってみると若いものです。

とは言うものの、若いのは気分だけで物忘れのひどく成った事一つ考えてみても、ああこれが年輪の現れなのか、と思うこの頃です。

健康には気を付けて会合、講習会等には出来るだけ足を運び、少しでも時の流れについて行きたいと思っています。

新春や 第二の人生 踏みしめて



還暦を迎えて

八反田 竹間勝榮

還暦を迎え、六十路を歩き始めました。

今振り返って見ますと、七才で父を戦争で亡くし、私達家族は母の里波積に疎開して来ました。母は七人の子供に食べさせる事も儘ならず辛い思いをして居ました折、私を養女にとの話が

有り、私も子供なりに、一人でも滅れぼとの思いで十三才の春兄と叔父に連れられて大家に来ました。

その時、養父は「この子はいつ死ぬか」と心配したそうです。それほど私は体が弱く痩せていたのです。でも無口でも優しい養父母に大切に育ててもらって元気になりました。

そんな私でも一度は都会に憧れて楽しい夢を見た時もありました。でも養母のたつての願いもあり、二十才で結婚しましたが、その三カ月後、養母は朝床の中で亡くなっていました。わずか七年ではありましたが、多くの事を私に残してくれました。

二人の子供と、良き友、良き隣人に恵まれて一度も大家を出る事はありませんでしたが、私なりのほどの幸せな日々であったと思います。

主人と私の合わせて八人の親を見送った今、少々体にガタが来ていますが元気で働きの主人と月に一、二度孫に会う日を楽しみに、健康であるが為のほどほどの幸せに感謝し、喜びを強くしている六十才の春です。



我がふるさと  
大家からの旅立ち

大阪芸術大学大学院教授 田中公道  
関西高山会副会長

人生はどのように生きていくべきか！  
人の生き方は無数にある。決められた一本の道だけしかないわけではない。人それぞれによって、その生き方は違っている。人生というものはその人の生き方にしたがって、どのようにでもその姿を描き出していけるものだった方が本当であろう。人生をどのような姿に築いていくか、それはその人の生き方によって決められる。  
だから、それが決められていく一番の土台になるものは、若い日の生き方だろう。だから、その人の一生涯にとって、若い日というものは、掛け替え

のない大切な意味をもっている。どのような世界に進むにしても、いずれにしても勉強に対する強い欲求、何を求めようとしているのか、その具体的な情熱と熱い夢こそが、人が向上するために、一番大切な基礎となるものだと思っている。

人を動かす力は、学問や思想よりも人の心、魂が人を動かす力なのである。どのように学んでも尚、絶えず勉強をし続ける人だけが、生涯、進歩し続けることを止めない人だと私は思っている。

私は今、過疎の地になった村、大家で自分自身が学ぶ土壌を身につけ「異国の丘」の歌を共に歌ったあの教室から育ち、強い影響を受けた恩師があったことを思い出している。

私は小中学校時代、学校の成績が悪くて学校生活から落ちこぼれていた。強かったケンカもいつの頃から弱くなっていじめも受けるようになっていた。その落ちこぼれた日々の中で自分で見つけた世界、それがラジオだった。ラジオの組立てに熱中することによって、学校生活では味わうことも無か

った「熱中する喜び」を体験していた。三年間少々、熱中し続けたラジオも私は思春期を迎えて感覚的な要素の多い人間に変わったことによって、それ以上にラジオを継続発展させることが出来なくなり挫折の日を迎えた。

しかし、この時期に体験した熱中する喜びは、その後の私の人生の生き方を大きく決定づける重要な要素として、身につき育っていった。

遼摩高校商業科での三年間は、自分が熱中でできる何かを求めて、あらゆることに挑戦を試みた苦闘の時代だった。進むべき進路を見つけないことが出来なまま、学校にあった求人の中で、大学の夜間部に進学を支援してくれる小さな会社があった。そこに就職すれば何か自分の将来を見つめるチャンスが生まれるかも知れないと思いついた。

学校長の推薦と面接試験を受けて採用が内定した後、大学受験のための身体検査で肺浸潤を宣告され、会社も辞退して療養生活をするはめになった。この不幸な療養生活の中で私に一大転機が訪れた。求めても見つけないこと出来なかつた自分の人生、熱中でき

るものをこの療養の身で得たのである。ラジオから流れたイタリア人テノールの高音の輝き、人間の声の魅力は私に限りない喜びと大きな感動を与えてくれた。唯、それだけの出来事で、ピアノを弾いたことも無い音楽的体験も全く無かった私が一気にオペラ歌手になることを決断していた。

周囲の反対を押し切って、十九才寸前の決断だった。誰もがもう年齢的に遅いことを理由に取り合ってくれなかった。私の情熱が高まる中で、戦後外地から引き上げて来たある一人の音楽の先生との感動的な出会いがあって、音楽の勉強が始まった。

経済的なことや勉強を始める条件を整えるために、村を出て仁摩町に住みパン屋に勤務した。朝五時からの務めを昼に終え、夜間に暹羅高校のピアノを借りて練習に励んだ浪人時代。

三浪してやっとの思いで入学した島根大学教育学部。

そして八年間勤務した尼崎の中学校の教員時代、純真な子供たちを犠牲にしておけないと言う思いと、オペラ歌手として歌えるようになりたいと言

う強い希望との板挟みに苦しんだ。

当時あった宿直を一手に引き受けてその手当てで声楽のレッスンに通い、夜間に音楽教室で積んだ練習は実りの多いものだった。その間、音楽コンクールに入賞や招聘されて出演した第九回世界青年学生平和友好祭での多くの行事二カ月間にわたる東ヨーロッパでの夢の海外体験、ミラノ・ヴェルディ国立音楽院に留学したイタリア滞在時代、いずれも外貨が自由化していない難しい時代の二度にわたる海外体験と人々との感動的な出会いは、私の人生観をすっかり変えてしまった。いずれの地でも、いつの時代にもベストを尽くし今日まで弛まない歌の勉強と、大切な国際感性も養って来た。

一つのチャンスが次のチャンスを生み、訪れた中国の国立大学は二十四校にのぼり、その中の十二の大学から客員教授の辞令を受け、邯鄲市文化促進会・文化大使、邯鄲市政府認可で私の冠をつけて開設された、田中公道芸術研究所・名誉顧問など、いつもベストを尽くし、個人レヴェルで人々から信頼を得た結果だった。

国際交流とは異文化を理解することである。同じ人間だからと思うことは誤解を生む、それぞれの国には、それぞれの歴史と文化があり、その異文化を理解することから始まるのが国際交流である。

国際人に問われる資質は会話力や国際感覚なども当然含まれるであろうがそれ以上に大切なことは、万国共通の土台にある人の心、人間性だと思う。経済力や民族性などに関係なく接し方がいつも対等であれば、身構えることなくフランクでオープンに接することが出来れば、個人の中身で勝負が出来れば、それらを総合的に体当りさせて勝負をかけられる人こそが国際人であろう。

今日日本にとって大切なことは、情熱と信念で相手の懐に飛び込んでいける人材、一対一で勝負が出来る人材を一人でも多く養成することだと思う。これまでの日本社会は集団のパワーで伸びて来た、欧米での競争は団体戦ではなく個人戦である。今アジアの国々の若者は組織のパワーに頼らず、自分自身の力で勝負をしようとする人たちが

多くなった。

私の世界各国での海外公演も、三十四回の渡航で百八十二回を数え日本国内外合わせて千二百回を超えての演奏活動を続けて来た。昨年は還暦リサイタルをイタリアの世界的ピアノリストとの共演で大阪、東京で開催し、イタリアの指揮者と京都市交響楽団でオペラアリア集のCDも製作した。

加齢による成人病との戦いのために始めた体力、筋力アップ運動も三年目に入った。始めた動機が一刻も猶予ならないことだったので今も止めることなく続いている。

還暦になって未だ自分の芸の未熟さを知り、もし、将来において芸の成熟を見た時、すでに足腰や体力、声が老化し弱っていたと：：ならないためにも今、肉体的、精神的若さを保つための努力を継続している。次から次にと未知に対する欲求が沸き上がり、過去を振り返る時間がない。

今、六十一才の誕生日を迎えようとしている。生涯現役とは何か、生きていく限り闘争心を失わず、挑戦と対決は日常の常として生き続けたい。

二月中旬からは中国の各大学で声楽公開講座やリサイタルで滞在し、中国からタイ国やシンガポールの大学にも訪問する予定である。

子供時代に知った熱中する喜びが今も脈々と続き、病床で感動した人間の声、輝かしい高音に、今も熱い思いで憧れを抱き、その声でもって世界に旅立ちが出来ることを幸せに思っている。

平凡で何の取り柄も無かった私の個性を、多くの方々に支えて戴くことによつて継続させ、私の僅かだった能力を最大限まで活用出来るまでに成長させることが出来たことは嬉しい限りである。

座右の銘として、いつも「継続は力なり」と歩んで来た。

どのような人生を歩むにしても健康に勝るものはない。身体と精神の健康は、努力なしには得られない大切なものであることを今、実感している。私を育んだ土壌はふるさと大家にあった。

新成人おめでとう！  
来る一月四日大田市市民会館に於て

成人式が行われ、大代では七名の方が成人されました。(敬称略)

- 川上 角 智宏 山田 坂本将史
- 山田 武田隆広 八反田 竹間良太
- 梶 田辺信二 四日市 森田才恵
- 上市 横田真巳

一月の行事予定

- ◆6日(火) 編集委員会
- ◆9日(金) あすなる旬会
- ◆11日(日) 大田市消防出初め式
- ◆11日(日) 福祉弁当
- ◆20日(火) JA健康診断
- ◆22日(木) 連合自治会
- ◆25日(日) 大田市市議会議員選挙
- ◆31日(土) 福祉委員会

★——★おしらせ★——★  
◎社協大代支部より

- 下市 永井忠義様から
- 植松 山根 武様から
- 山田 渡 淳様から
- 上市 田中 出様から

それぞれ香典返しにかえ金一封の御厚志を頂き厚く御礼申し上げます。